

創刊に寄せて

石田孝四郎

もう何十年も前のことでしたか、我々同窓生の中で花に関係する人々だけの会ができて、年とともに発展を重ねてまいりました。これも「花葉会」といいました。

その後、事変や戦争が続き、その間に会の中心になって下さった2、3の方々が相次いで物故されるなどして、その活動はいつとはなしに立ち消えとなりました。

一昨年(昭和40年)のこと、期せずして関係者の声が集まり、春の園芸学会を機会に、花関係者の初会合をするにいたりましたことは、まことに喜ばしいことと存じます。

以後関係者の御尽力で、会の名や運営方針をはじめ、会費などにいたるまで、アンケートで総意をまとめるなど、きわめて民主的なり運びのうちにその基礎ができ、再び意義ある「花葉会」が新たに確立されたわけで、同窓の1人として心から感謝している次第です。

今ここに更に1歩を進めて、機関誌を創刊されるとのこと、この会もいよいよレールに乗った感があり、今後の歩みに心から御期待申し上げるものです。

会の運営にあたっては、当然いろいろの困難にも遭遇することでしょうが、すべての会員が寛容な度量をもって、めいめいの責任を意識して、お互に協力し合って楽しい、また実のある運営をしていかなければならないと思います。

日本の農業も米作を中心に大形化され、また機械化もされつつあります。一方では特産地の育成により、特産物の生産をより科学的に、集約的に企業化させざるを得ない時代となりました。

我国における花卉園芸業界も、今後は内需のみならず、進んで輸出面での開拓をはかり、日本経済の一端をになうという遠大な心組んで、その堅全な成長に向って、真剣に取り組むべきであります。

この時にあたり、園芸に関するすべての学校の卒業生が、つまり日本の総力をあげて、この大目的達成に向ってまい進すべきであるのは勿論ですが、同時に松戸の母校を中心とする花卉園芸の研究者、ならびに業者もまたそれなりに団結して、緊密な連絡をとり合って、親睦はもとより、花卉園芸の学会、業界の発展のための大きな力になりたいものです。

大方諸氏の要望によって、このたび会報が創刊されることは、この会の目的達成をいっそう効果的にするものと信じ、心からお喜びを申しあげるとともに、今後の意義ある発展を願い、前途を祝福してやみません。

花葉会の歩み

岩井英明

もう何十年も前のことですが、同窓先輩諸氏の
中の、花に関係する人々だけが集まって会をもち、
年とともに発展して盛会となり、これを「花葉会」
と名づけました。その後、事変や戦争がつづき、
その間に会の中心になって活躍された2、3の方
々が、相次いで物故されるなどして、その活動は
いつとはなしに立ち消えとなりました。

戦後の約20年間は会としての活動もありません
でしたが、昭和40年に穂坂八郎先生（元花卉主任
教授）や石田孝四郎さん（元第一園芸社長で故人）、
加藤光治さん、三好鞆男さん（株・ミヨシ社長）、
清水基夫さん等の大先輩が中心となり、春の園芸
学会を機会に、東京・青山の会館（現文部省共済
組合の銀杏荘）に花の関係者を集めて、戦後最初
の会合を開きましたところ、大勢の出席者があっ
て、たいへんな盛会でした。

その後昭和43年頃まで、前述の会館で毎年1回
会合をもちました。当時は海外の花卉園芸事情の
視察や研究の紹介が少ない時でしたが、故石田孝
四郎先輩の欧米の視察、調査報告のスライドと講
演が行なわれました。今でこそ多くの方々が欧米
を旅行し、花卉園芸事情も十分に視察調査されて
いますが、当時としては欧米の花卉園芸事情を知
る上で大変効果的な報告会であったことが、スラ
イドの思い出と共に頭の中にこびりついています。

その後、本会の活動も軌道に乗ったかに見えな
がら、いつともなく活動がさびれ、10年余も会合
さえ開かれないうまに経過してしまいました。

昭和53年になって、三好鞆男大先輩を中心に、
昭和20～27年卒業の、花に関連のある業務に携わ
っている同窓（現幹事等）が集って、花卉関連業界
の発展した昨今、花葉会を復活して、同窓相互間
の連絡を密にし、互いに励し合い、助け合ってい
くべきではないかと、話し合いをすすめていまし
たところ、期せずして関係者の声が集まり、当
時の母校の花卉主任教授である小杉清先生を中心
に、東京パレスホテル（現幹事小田善一郎氏が同
ホテルの園芸嘱託をしている関係）で、盛大な会

合がもたれましたことは、ご存知のとおりです。

その後、多くの先輩や同窓のご意見をも伺い、
強力なご支援のあることも判然しましたので、事
務局を母校の花卉園芸研究室に置き、会務の運
営と活動の基地としての役割りを果たしていただ
き、いろいろと準備をすすめて参りましたところ、
入会希望者も多く、また、会を開催するごとに遠
隔地からの出席者も多く、年ごとに盛会になって
きました。このところ、毎年1回、9月上旬に
パレスホテルで大会を開催しています。

昭和54年は鶴島久男幹事、魚野昭一幹事の海外
出張視察の報告会を中心に、昭和55年には会の再
興の生みの親でありました小杉先生の、母校退官
記念を主に、56年には母校の花卉園芸研究室の若
い三役誕生（横井教授、安藤助教授、上田助手）を祝
して、横井教授より御三人の紹介があり、花葉会の
事務局としての運営、活動の抱負、母校の近況報
告などがあった後、花卉園芸界の発展に大きく寄
与された清水基夫先輩の表彰と、園芸学会賞を受
賞された北大の浅野義人氏（s.48園卒）に記念品を
贈呈した後、花葉会々則の最終的な紹介発表があ
って、名実共に花葉会の姿が整ったわけです。

本年も9月19日（日）にパレスホテルで、花卉園
芸学界で活躍され、数々の偉大な業績を残し、花
の発展に大きく貢献された岡田正順先生（筑波大
学名誉教授）のご退官記念と、花葉会の活動発展
の原動力となって活躍された先輩方の表彰を中心
に、旧交をあたため、酒盃を交わしながら、情報
を交換し、おおいに花卉園芸界の明日について語
り合うべく、準備中です。

会報も会員諸氏の要望によって、広く花卉業界
から広告によるご協力をいただき、どうやら発刊
の運びとなりました。なお、この会の目的達成の
ための基金募集も、担当幹事を中心に、強力に展
開しようと幹事一同張り切っています。意義ある
本会の発展を目ざして、会員諸兄姉の絶大なるご
支援とご協力を願いつつ、本会の歩みのご報告を
終ります。
（当会幹事長）

花葉会入会御案内

本会は花き園芸に携わる松戸の卒業生の会で、先ばい後はいの縦横の結びつき、親ほく向上に一役かうことを目的とするものです。

(発足は1965年4月)

運営方法は年一回、4月に(園芸学会のころ)会員が集まり(総会)、1~2名ずつお得意の話題で講演をしていただきます、この後は懇親の会とします。

会長は決めず。世帯役は現在松戸、東京近辺の関根(昭8卒)、岡田(昭11)つる島(昭23)村井(昭32)の諸氏、事務局より小杉、浅山、横井があたっています。

会費は年額500円で、送金か総会の際に支払っていただきます。

会報、名簿は当分の間年1回発行します。

会員は現在約130名です。

以上趣旨に御賛同いただき、御入会御希望の方は、事務局までお申し込み下さい。また、お心当りの方を御紹介下さい。

事務局 千葉県松戸市戸定648

千葉大学園芸学部花き研究室内